



【開催報告】第32回危険物事故事例セミナー

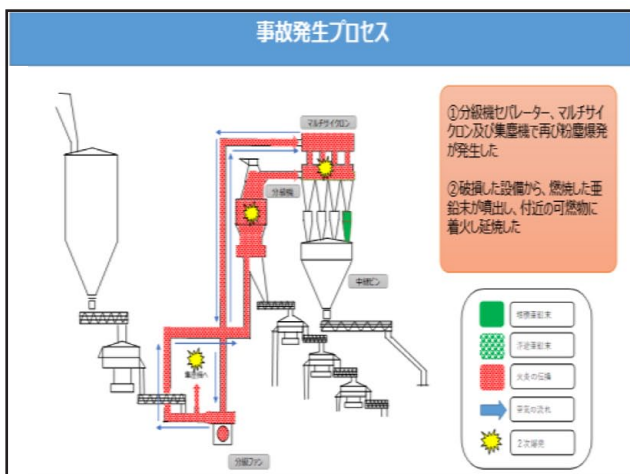
事故防止調査研修センター

当協会主催の「第32回危険物事故事例セミナー」は、一昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、3月1日から3月31日までWeb配信にて開催し、危険物行政に携わる消防職員や日頃、危険物の取扱い等の業務に携わっている事業所の方など、173名の方々にご参加いただきました。

今回のセミナーでは次の4題について、ご講演いただきました。

- 1) 倉敷市消防局 危険物保安課 課長主幹 小林 賢博 様から「危険物屋外タンク貯蔵所廃油漏えい事故について」と題して、屋外タンク貯蔵所が建替え（SUS304からSUS316に材質を変更）から1年6ヶ月しか経っていないにもかかわらず、特異な腐食により開口し、廃油が約18リットル漏えいした事故事例についてご紹介いただきました。
- 2) 堺市消防局 予防部 危険物保安課 主査 千早 淳 様から「①メタノール蒸発器からの漏えい及び火災事故 ②液封による危険物漏えい事故」と題して、①メタノール蒸発器の開放点検のため底部配管のフランジを外したところ、メタノールが噴き出し作業員が被液、一旦退避するも、再度、フランジボルトを締めに行った際に何らかの原因により引火し、火傷による重傷を負い、施設の機器も焼損した事例と②人的要因により液封が形成されたことにより、配管内の圧力が上昇しバルブが破損、危険物が漏えいした事例の2事例についてご紹介いただきました。
- 3) いわき市消防本部 消防司令補 主査 吉田 宏一 様から、「亜鉛末製造工場爆発火災について」と題して、金属亜鉛を加熱蒸留させて亜鉛（非危険物）を製造する危険物一般取扱所の分級（粗い亜鉛粒子と細かい亜鉛粒子に分ける）工程において、構成機器の異常損耗によって生じた粉じん爆発事故事例についてご紹介いただきました。
- 4) 川崎市消防局 予防部 危険物課 検査係長 喜多村 亮太 様から、「石油樹脂粉体による粉じん爆発火災」と題して、隣接する危険物製造所において製造された石油樹脂をフレーカー室・荷造り室棟で固化粉碎し、製品サイロへ充てんしていたところ、爆発が発生し、フレーカー室・荷造り室棟を焼損する火災に至った事例についてご紹介いただきました。

当協会では、これからも危険物の保安対策の推進に役立つセミナーを企画してまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。



原因等の推定

(3) 中継小屋（バケット集塵機含む）について
バケット集塵機には爆発による変形は認められず、中継小屋内に存する機器も焼損しているものの、着火原因となる摩擦や配線の短絡等の事象は認められず、出火箇所となった可能性は低い。

(4) バケットコンベアについて
フレーカー室の屋根に設置されているA系列のバケットコンベアケーシングの損傷状況は、大きく開口又は中継小屋方向へ、めくれ上がっている状況であること。

また、ケーシングステーの状況を見ると、装置上流から下流へ変形していること、及び溶融樹脂の付着状況が上流側のみであることから、**バケットコンベアの垂直部分が、一次的な爆発の発生箇所であった可能性が高い。**

川崎市消防局

映像抜粋（左：いわき市消防本部、右：川崎市消防局）